

## IX. 社会貢献

教育研究成果の社会への還元は、高等教育機関の果たすべき使命である。この観点から本学では、本学の特色を生かして積極的に取り組むことによって、地域に根ざした大学となることを目標としている。

公開講座等のように本学教員の研究成果を広く社会に還元するものが中心であるが、「女性のための無料英語教室」は、大学教員の指導のもと、本学学生が講師となって開講している他大学にはない特色ある取り組みであるといえる。

総体的に本学は、質的にも量的にも社会に貢献しているといえるが、内容的には、更に検討を加える必要がある。特に、公開講座は各学科・専攻が主体となって計画しているが、大学として毎年一つのテーマを設定し、そのテーマに基づいて各学科・専攻が内容を検討し実施する、また実施時期についても一般社会の人々が参加しやすい土曜日や日曜日に開設する、等の検討が課題であるといえる。更に、教員と学生との協力体制による企画を新たに設けることの検討も大学として必要なことであると考えている。

### 1. 社会への貢献

- a. 社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度
- b. 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況
- c. 教育研究上の成果の市民への還元状況(研究成果の社会への還元状況)

#### 【現状の説明】

大学の果たすべき使命の一つとして、さまざまな場での多様な社会に対する貢献が重要視されるようになってきた。

本学ではその観点において、公開講座・ニューイヤーコンサート・女性のための無料英語教室・全京都小学生お話しコンクールを催し、科目等履修生の受け入れ及び学会や各学科等の研究紀要発刊を行っている。また「京女の森」を活用した研究・教育・社会への発信の総合的活動も行っている。

まず、公開講座は毎年多くの講座が設けられており、平成14年度は19回、平成15年度は17回、平成16年度は20回開催されている。参加者数は各100名～200名程度で、テーマによって差がある。参加者は一般市民・研究者・他大学学生・本学学生等々多彩である。公開講座の企画・立案については、各学科・研究所等が主体となって行っており、開講形態も様々である。以下に平成14年(2002年)度～平成16年(2004年)度の公開講座の講座名・講師・参加人数等を一覧にして示すこととする。

平成14年度 京都女子大学公開講座一覧(5～7月)

講座名および課題	講師	日時	場所	受講者数
<b>教育学科春季公開講座</b> 総合的な学習の時間 『自然・もの・人と主体的にかかわり合う心豊かでたくましい馬木(まさき)の子の育成』 ―馬木の自然を守ろう―	鳥根 景仁 多郡 横田 町立 馬木 小学校 教諭 研究主任 長谷川 恵美子 氏	5月18日(土) 13:30～15:30	Q301教室	約200名
<b>国文学科公開講座</b> 若者言葉と日本語の変化	武庫川女子大学言語文化研究所 所長 文学部 教授 佐竹 秀雄 氏	5月22日(水) 13:00～14:30	J224教室	約240名
<b>教育学科音楽教育学専攻公開講座</b> 『アンデスの民と日本人』 ―フォルクローレ音楽を通して見るアンデスの歴史― フォルクローレ(アンデスの音楽)の講演と演奏	フォルクローレ情報館コチャバンバ代表 安岡 秀典 氏	5月25日(土) 13:30～16:00	音楽棟演奏ホール	約150名
<b>英文学科公開講座</b> 『ロミオとジュリエット』は若者の悲劇か 『ハリー・ポッター』はなぜ読まれるのか	本学講師 小山田 淳子 氏 本学教授 穂川 直博 氏	5月30日(木) 13:00～14:30 14:45～16:15	J525教室	約200名
<b>史学科公開講座</b> 近世京都(醍醐町)に生きた人々 ヴェルサイユ宮殿 ―絶対君主の儀礼空間―	本学教授 中山 清 氏 京都女子大学 教授 服部 春彦 氏	5月31日(金) 13:00～14:40 15:00～16:40	J420教室	約200名
<b>食物栄養学科公開講座</b> スポーツ活動と水分 マラソンランナーの栄養サポート ―内容とその段階―	本学教授 中井 駿一 氏 立命館大学非常勤講師 河合 美香 氏	6月8日(土) 13:30～14:20 14:30～16:00	C501教室	約200名
<b>現代社会学部公開講座</b> ナショナリズムと21世紀の日本の道 ―教育の現場と歴史からの証言に聴く― 青少年の心と教育の国家主義的傾向 ナショナリズムの道 日本の場合・ドイツの場合	本学教授 野田 正彰 氏 京都大学名誉教授 林 功三 氏	6月29日(土) 13:30～14:30 14:30～15:30	J525教室	約160名
<b>宗教・文化研究部公開講座</b> 『東山から発信する京都の歴史と文化④』 『平家物語』を読む、掘る I部 『平家物語』合戦談のリアリティ ―橋合戦を中心に― II部 消えた建春門院殿を探る	青山学院大学教授 佐伯 真一 氏 花園大学助教授 山田 邦和 氏 司会 野口 実 氏	6月29日(土) 13:00～17:00 13:00～14:45 15:00～16:45	B514教室	
<b>児童学科公開講座</b> 第14回 子どもと親のためのゼミナール 第1日目 心の悩みを聴く体験学習 ―カウンセリング実技講座― 第2日目 午前の部 コンサート&音遊び体験 『ワクワク音楽会』 午後の部 講演 『音楽療法と創造性』	本学助教授 大辻 隆大 氏 本学非常勤講師 石野 泉 氏 本学講師・作曲家 野村 誠 氏 元岐阜県音楽療法研究所 研究員・打楽器奏者 片岡 祐介 氏 音楽療法家 片岡 由紀 氏 元岐阜県音楽療法研究所 研究員・打楽器奏者 片岡 祐介 氏 コーディネーター:野村 誠 氏	7月6日(土) 13:00～17:30 7月7日(日) 10:30～11:30 13:00～14:30	D校舎 学生ホール 音楽棟演奏ホール	約450名
<内容>「第14回 子どもと親のためのゼミナール」は、児童学科としての特性を活かした講座となっており、カウンセリングと児童音楽の両面から 実技と理論を中心に、一般の方々にもわかりやすく子育ての助言をいたします。				
<b>こころの相談室公開講座</b> 関係を育てる心理的援助 ―子育て支援を考える―	京大 助教授 田中 千穂子 氏 こころの相談室 室長 本学教授 白上 穂子 氏	7月20日(土) 13:30～16:30	L校舎3階会議室	約70名
対象:保育士、保健師、心理職など子育て支援関係者 定員:50名(予約制・事例報告希望者を募集する)				

平成14年度 京都女子大学公開講座一覧(10～11月)

講座名および課題	講師	日時	場所	受講者数
<p>人文学会公開講座</p> <p>ブータン ―ヒマラヤの伝統的な王国における現代生活―</p> <p>ソムタム ―東北タイ文化を捉える―</p>	<p>本学講師 ルイザ・ドージ 氏</p> <p>龍谷大学教授 舟橋 和夫 氏</p>	<p>10月23日(水) 15:00～16:00</p> <p>16:00～17:00</p>	J202教室	約60名
<p>国文学科公開講座</p> <p>「八景」現象の誕生 ―拡大再生産される近世東アジアの風景モデル―</p>	早稲田大学助教授 内山 精也 氏	10月24日(木) 14:45～16:15	J320教室	約160名
<p>現代社会学部公開講座</p> <p>京都認定書批准記念 環境問題への新たな視点 「過剰消費社会を超えて」～サステイナブルな消費文化を探る～</p> <p>スロー・ライフとほんとうの豊かさ</p> <p>サステイナブルな消費と小売業の役割 &lt;パネルディスカッション&gt;</p> <p>過剰消費社会からの脱却は可能か?</p>	<p>明治学院大学教授 辻 信一 氏</p> <p>(株)西友 執行役員 小林 珠江 氏 &lt;パネリスト&gt;</p> <p>明治学院大学教授 辻 信一 氏 (株)西友 執行役員 小林 珠江 氏 本学助教授 伊藤 正憲 氏 &lt;コーディネーター&gt; 本学講師 飯田 哲也 氏</p>	10月26日(土) 10:00～12:00	キャンパスプラザ京都 第1講義室	約80名
<p>仏教・文化公開講座</p> <p>第Ⅰ部 仏教からの心の教育</p> <p>第Ⅱ部 ご仏像のその奥に</p>	<p>前京都女子大学学長・同 宗教・文化研究所所長 瓜生津 隆美 氏</p> <p>仏師 江里 康慧 氏</p>	10月30日(水) 14:45～16:00  16:15～17:45	B420教室	
<p>生活造形学科公開講座</p> <p>服飾と文化</p> <p>衣裳をたずねる旅</p> <p>ボディメイクと服飾</p>	<p>服飾評論家 市田 ひろみ 氏</p> <p>本学教授 島山 絹江 氏</p>	11月9日(土) 13:10～14:40  15:10～16:20	B514教室	約230名
<p>史学科公開講座</p> <p>可視化された王権 ―秦始皇帝の「帝国」を読む―</p> <p>卓弥呼と神仙思想</p>	<p>本学教授 松井 嘉徳 氏</p> <p>京都学園大学教授 岡本 健一 氏</p>	11月15日(金) 13:00～14:40  15:00～16:40	J420教室	約200名
<p>英文学科秋期公開講座</p> <p>Heaven, Friendship, and Poetry in Emily Dickinson</p>	元カンサス大学教授 Alfred Habegger(アルフレッド・ハビガー)	11月21日(木) 13:00～14:30	J525教室	約110名
<p>教育学科秋季公開講座</p> <p>関わり合いを核として、気づき求め続ける学習のあり方</p> <p>心豊かなたくましい子の育成 ―創作劇「サダコ物語」の取り組み―</p>	<p>彦根市立若葉小学校教頭 中山 博 氏</p> <p>宝塚市立美穂小学校教諭 浜本 秀子 氏 宝塚市立美穂小学校教諭 松原 美保 氏</p>	11月30日(土) 13:30～14:45  15:15～16:30	B514教室	約200名
<p>児童学科公開講座</p> <p>―児童文化・児童文芸ゼミナール―</p> <p>教科書と児童文芸</p> <p>自作を考える ―はなのみちを中心に―</p>	<p>本学教授 岡田 純也 氏</p> <p>作家・日本児童文芸家協会理事長 岡 信子 氏</p>	11月30日(土) 13:30～14:40  15:00～17:00	J525教室	約180名

平成15年度 京都女子大学公開講座一覧(4~7月)

講座名および課題	講師	日時	場所	受講者数
第1回 女性のための無料英語教室 ※対象者・京都市内に在住または在勤する20歳以上の 中学生レベルの基礎的な英語学習を望んでいる方 ※事前申込	英語科の教員免許取得を希望する本学学生	4月23日(金) ~ 7月2日(金) 18:30~19:30 (毎週金曜日 全11回)	A401・A402	約26名
現代社会学部公開講座 女性が生きやすい社会とは何か~日米の比較から~ 日本人女性としてアメリカに生きる —留学生・主婦・ジャーナリスト—	ノンフィクション作家 林 かおり 氏 コメンテーター:本学講師 嘉本 伊都子 氏 司会:本学講師 嘉納 もも 氏	4月19日(土) 14:00~16:40	J525教室	約130名
教育学科春季公開講座 豊かな表現力を育む学習指導 —心とからだを解放した表現運動・ダンス教育の充実を 聴いて—	本学教授 川口 千代 氏	5月17日(土) 13:30~15:30	B514教室	約200名
国文学科公開講座 『風土記』のよみかた	兵庫教育大学名誉教授 植垣 節也 氏	5月22日(木) 16:30~18:00	J420教室	約150名
英文学科春期公開講座 Magic Writing and Real Presence —Some Aspects of the Use of Kanji by Pound, Eisenstein, and Greenaway— 日本語と日本語らしさ —内からの視点・外からの視点—	本学教授 ジョージ・ハイド 氏 東京大学名誉教授・昭和女子大学大学院教授 池上 嘉彦 氏	5月30日(金) 13:00~14:30 14:30~16:15	J525教室	約200名
史学科公開講座 井伊直弼の人間像 よみがえるガンダーラ仏教	本学助教授 梶利 美和 氏 富山大学名誉教授 小谷 伸男 氏	5月30日(金) 13:00~14:40 15:00~16:40	J420教室	約200名
教育学科音楽教育学専攻公開講座 『歌うこと』—身体と心が喜ぶ発声法—	本学講師 松下 悦子 氏 本学助教授 土屋 知子 氏	6月7日(土) 13:30~16:00	音楽棟 演奏ホール	約200名
食物栄養学科公開講座 食品表示の実際 遺伝子組み換え食品 —その現状と将来—	株式会社 第一化成 取締役 研究開発部長 袴川 祥一 氏 京都大学大学院教授 村田 幸作 氏	6月14日(土) 13:30~14:30 14:40~16:00	C501教室	約150名
児童学科公開講座 第15回 子どもと親のためのゼミナール 第1日目 心の悩みを聴く体験学習 —カウンセリング実技講座— 第2日目 午前の部 環境と脳の発達 自閉症児・者への発達年代別課題 午後の部 保育における児童文化の役割 (体験学習 おもちゃづくりを含む) 大学院「こころの相談室」公開講座	本学助教授 大辻 隆夫 氏 本学非常勤講師 石野 泉 氏 本学教授 佐藤 益子 氏 本学教授 高木 徳子 氏 本学助教授 村柴 喜代子 氏	7月5日(土) 13:00~17:30 7月6日(日) 10:00~10:45 11:00~12:30 13:30~16:30	D校舎 学生ホール B420教室 B114教室	約100名
自閉症児の早期療育 —親子関係の育ちと発達を考える—	仙台白百合女子大学助教授 白石 雅一 氏 こころの相談室室長・本学教授 山上 雅子 氏	7月20日(日) 13:30~16:30	J525教室	約150名

平成15年度 京都女子大学公開講座一覧(10～12月)

講座名および課題	講師	日時	場所	受講者数
<p>京都女子大学共催公開講座 第23回 家族関係学セミナー 公開シンポジウム 「これからの女性・家族を考える —最近の家族をめぐる構造改革論議から—」</p> <p>女性をめぐる世代間関係</p> <p>子育て支援の課題</p> <p>女性と年金制度</p>	<p>日本大学教授 清水 浩昭 氏</p> <p>花園大学教授 古藤 エツ子 氏</p> <p>お茶の水女子大学教授・ 厚生労働省「女性と年金」検討会座長 袖井 孝子 氏</p> <p>司会:兵庫教育大学教授 服部 範子 氏 コーディネーター:本学教授 横村 久子 氏</p>	<p>10月4日(土) 14:30～17:00</p>	J525教室	
<p>(社)日本家政学会 家族関係学部会研究活動委員会報告 「子どものウェルビーイングと家族・地域社会」</p>	<p>司会:大妻女子大学助教授 小澤千穂子 氏 和歌女子短期大学助教授 竹田 美知 氏 報告者:群馬大学教授 長津 美代子 氏 戸板女子短期大学助教授 久保 桂子 氏 大阪市立大学教授 高甲 宗一 氏 信州大学教授 松岡 英子 氏</p>	<p>10月5日(日) 10:00～12:30</p>		
<p>児童学科公開講座 —児童文化・児童文芸セミナー— おはなしと浜田広介</p> <p>私とおはなし</p>	<p>本学教授 岡田 純也 氏</p> <p>俳優・語り手 佐野 茂夫 氏</p>	<p>10月18日(土) 13:30～14:45</p> <p>14:50～16:30</p>	C501教室	約230名
<p>人文学会公開講座</p> <p>漢字から中国語及び中国文化をみる</p> <p>カリフォルニア大学の入試制度について</p>	<p>本学講師 張 猛 氏</p> <p>本学講師 ハリー・ダウワー 氏</p>	<p>10月22日(水) 15:00～16:00</p> <p>16:00～17:00</p>	J202教室	約50名
<p>国文学科公開講座</p> <p>歌舞伎がたどった伝統芸能への道 —近代演劇との相克を超えて</p>	<p>池坊短期大学助教授・『上方芸能』編集長 森西 真弓 氏</p>	<p>10月30日(木) 13:00～14:30</p>	J420教室	約150名
<p>教育学科公開講座 森を活用した体験的な環境教育の展開</p> <p>角間の森での環境教育の展開</p> <p>龍谷の森での環境教育の展開</p> <p>九州大学新キャンパスでの環境教育の展開</p> <p>&lt;まとめ&gt; 初等教育における環境教育の役割について</p>	<p>金沢大学大学院教授 中村 浩二 氏</p> <p>龍谷大学助教授 土屋 和三 氏</p> <p>九州大学大学院教授 矢原 徹一 氏</p> <p>本学教授 高桑 進 氏</p> <p>本学助教授 宮野 純次 氏</p>	<p>11月8日(土) 14:05～14:50</p> <p>14:50～15:35</p> <p>15:45～16:30</p> <p>16:30～17:00</p>	B514教室	約50名
<p>英文学科秋期公開講座</p> <p>日本語話者による英語音節の認識</p> <p>アメリカ文学の経系と横系</p>	<p>本学助教授 石川 圭一 氏</p> <p>関西学院大学名誉教授・関西福祉科学大学教授 岩瀬 悉有 氏</p>	<p>11月14日(金) 13:00～14:30</p> <p>14:45～16:15</p>	J525教室	約150名
<p>史学科公開講座</p> <p>19世紀アメリカの女性たち</p> <p>墨山の語る江戸時代</p>	<p>本学教授 常松 洋 氏</p> <p>京都府立大学教授 水本 邦彦 氏</p>	<p>11月14日(金) 13:00～14:30</p> <p>15:00～17:00</p>	J420教室	約250名
<p>教育学科音楽教育学専攻公開講座</p> <p>音楽にできること</p>	<p>音楽教育家・相愛大学非常勤講師 北村 智恵 氏</p>	<p>11月29日(土) 13:30～15:30</p>	音楽棟演奏ホール	約250名
<p>現代社会学部公開講座 京都は美しいか? ～日本社会の景観と「社会の質」を考える～</p> <p>&lt;講演&gt; カルチュラル・ランドスケープの視点から</p> <p>町並の個性と京都再生</p> <p>&lt;パネル討論&gt;</p>	<p>京都府立大学助教授 宗田 好史 氏</p> <p>京都造形芸術大学教授 佐々木 葉二 氏</p> <p>京都府立大学助教授 宗田 好史 氏 京都造形芸術大学教授 佐々木 葉二 氏 京町家再生工房代表・染色デザイナー 南 達一郎 氏 本学教授 横村 久子 氏 コーディネーター:本学講師 飯田 哲也 氏</p>	<p>12月13日(土) 13:30～16:30</p>	J525教室	約170名

平成16年度 京都女子大学公開講座一覧(4～7月)

講座名および講題	講師	日時	場所	受講者数
第2回 女性のための無料英語教室 ※対象者・京都市内に在住または在勤する20歳以上の 中学生レベルの基礎的な英語学習を望んでいる方 ※事前申込	英語科の教員免許取得を希望する本学学生	4月23日(金) ～ 7月9日(金) 10:30～19:30 (毎週金曜日 全11回) ※5月21日(金)は学校 行事のため休講	A401・A402	約80名
発達教育学部開設記念公開講座 「子育て問題の今日と明日を問う」 —子育て・保育・教育の再点検— 精神医学と母親の立場から サル学と心理学の立場から	大阪人間科学大学教授 服部 祥子 氏 京都大学霊長類研究所教授 正高 信男 氏	5月15日(土) 13:30～15:00  15:00～16:30	B514教室	約220名
英文学科春期公開講座 英国世紀末の都市と女性 ニックネームの言語学	本学教授 武口 美保子 氏 元大阪大学大学院教授・神戸女子大学教授 河上 哲作 氏	5月24日(月) 13:00～14:30  14:45～16:15	J525教室	約150名
国文学科公開講座 『とはずがたり』の文体の魅力	東京大学教授 三角 洋一 氏	5月27日(木) 14:45～16:15	J420教室	約150名
史学科公開講座 中世を旅する—公卿の日記から— ナポレオンとエジプト遠征	本学教授 稲本 紀昭 氏 京都大学大学院教授 杉本 淑彦 氏	5月28日(金) 13:00～14:30  15:00～16:30	J420教室	約250名
食物栄養学科公開講座 食べもの、その新しいものと変わらないもの 健康食品を利用するときに知っておきたいこと 京野菜のよみやま話—生産から消費まで—	本学教授 中川 一夫 氏 かね松老舗店主 上田 耕司 氏	6月12日(土) 13:30～14:30  14:45～15:45	C501教室	約200名
宗教・文化研究所公開講座 シリーズ「京山から発信する京都の歴史と文化⑧」 清盛の夢—『平家物語』の成立 Ⅰ部 福原の夢—清盛と神戸 Ⅱ部 平家物語のテキスト生成	神戸大学教授 高橋 昌明 氏 学習院大学教授 兵藤 裕己 氏 司会: 本学宗教・文化研究所教授 野口 崇 氏	6月26日(土) 13:00～14:30  15:00～16:30	J525教室	
現代社会学部公開講座 「現代の親子関係を考える」 <報告> 育児困難と子どもの虐待 食行動と親子関係 親子関係の変動と家族法 現代の親子関係と子育て支援 <討論>	本学助教授 棚瀬 一代 氏 元 本学教授 坂田 由紀子 氏 広島大学名誉教授・元 本学教授 中川 淳 氏 本学教授 加茂 直樹 氏 コーディネーター: 本学教授 井上 真理子 氏	7月3日(土) 13:30～16:00  <予約不要>	J525教室	約120名
児童学科前期公開講座 第1日目 イヌバテ法によるカウンセリング実習 第2日目 音楽ゲームで遊ぼう～ポディパーカッション&電子楽器	本学助教授 大辻 藤夫 氏 本学非常勤講師 壺川 真理 氏 本学教授 深見 友紀子 氏 愛知教育大学助教授 小泉 恭子 氏	7月3日(土) 13:00～17:30  7月4日(日) 10:00～12:00	D校舎学生ホール  音楽棟演奏ホール	約110名
大学院「こころの相談室」公開講座 早期母子関係の援助について考える	山王教育研究所・臨床心理士 橋本 洋子 氏 本学助教授 棚瀬 一代 氏	7月18日(日) 13:30～16:30	J525教室	約200名

平成16年度 京都女子大学公開講座一覧(9・10月)

講座名および講題	講師	日時	場所	受講者数
<p>大学院現代社会研究科開設記念 現代社会学部公開講座 世界とつながるわたしたち ―女性差別撤廃条約とNGO―</p> <p>日本における女性の権利と条約のあゆみ</p> <p>条約をくらしの中で活かすために ―国内のネットワークを国連へ―</p> <p>条約を「活用する」世界の女性たち ―国際的なネットワークを力に―</p> <p>&lt;質疑応答・討論&gt;</p>	<p>本学助教授 雨野 佳代 氏</p> <p>国際女性の地位協合理事 田中 恭子 氏</p> <p>コニフェム(国連女性開発基金)大阪代表 三輪 敬子 氏</p> <p>コーディネーター:本学講師 澤 敬子 氏</p>	9月26日(日) 13:30~16:15	J525教室	約60名
<p>児童学科後期公開講座 ―自閉症児への支援のあり方―</p> <p>(1) 総論(司会)</p> <p>(2) 幼児期を中心に</p> <p>(3) 思春期を中心に</p>	<p>本学教授 田川 元康 氏</p> <p>大阪自閉症・発達障害支援センター長 新澤 伸子 氏</p> <p>横浜やまびこの里 仲町台センター地域支援課長 中山 清司 氏</p>	10月16日(土) 13:30~17:00	B420教室	約140名
<p>国文学科公開講座 王朝女流日記の魅力とその特色</p>	<p>新潟大学名誉教授 宮崎 莊平 氏</p>	10月28日(木) 14:45~16:15	J420教室	約150名
<p>短期大学部初等教育学科保育士養成課程増設記念公開講座 ―保育の「いま」と「これから」―</p> <p>抱きしめる保育の実践</p> <p>これから保育にたずさわる人のために</p>	<p>だん王保育園園長 信ヶ原 千恵子 氏</p> <p>本学講師 佐藤 直之 氏</p>	10月30日(土) 13:00~15:15 15:30~16:30	B514教室	約200名
<p>生活造形学科公開講座 和家具の面白さ</p> <p>和家具の知識</p> <p>和家具との出会い</p> <p>造物三代</p>	<p>本学教授・昭和のくらし博物館館長 小泉 和子 氏</p> <p>NHK総合テレビ2カ国語放送アナウンサー・ライター 榎谷 エリザベス 氏</p> <p>木工芸作家 須田 寛司 氏</p>	10月30日(土) 13:00~14:30 14:50~15:50 16:00~17:00	C501教室	約100名
<p>仏教・文化公開講座</p> <p>第I部 日本仏教の自然観</p> <p>第II部 日本の自然の系譜―万葉から観葉まで―</p>	<p>本学教授 徳永 道雄 氏</p> <p>大阪大学名誉教授 大塚 顕 氏</p>	10月30日(土) 13:00~14:30 15:00~16:30	A校舎5階礼拝堂	
<p>生活福祉学科開設記念特別公開講座 介護の将来像を考える</p> <p>人生100歳を支える介護</p> <p>鼎談「介護の人材教育のありかた」</p>	<p>東京家政大学名誉教授 樋口 恵子 氏</p> <p>東京家政大学名誉教授 樋口 恵子 氏</p> <p>本学教授 井上 千津子 氏</p> <p>本学助教授 山田 健司 氏</p>	11月6日(土) 13:15~16:30	音楽棟演奏ホール	約100名
<p>人文学会公開講座</p> <p>平凡の趣 ―中国明代の性霊詩説―</p>	<p>本学助教授 西村 秀人 氏</p>	11月17日(水) 15:00~17:00	J201教室	約50名
<p>史学科公開講座</p> <p>15世紀東アジア海域の中国人</p> <p>東アジアの海 ―中国南朝・百済・倭―</p>	<p>本学教授 檀上 寛 氏</p> <p>国際日本文化研究センター教授 千田 稔 氏</p>	11月26日(金) 13:00~14:30 15:00~16:30	J420教室	約200名
<p>教育学科音楽教育学専攻公開講座</p> <p>中国音楽の調べ</p>	<p>中国琵琶演奏家・長城楽団代表者 蔡 衛陽 氏</p> <p>&lt;演奏&gt; 長城楽団</p>	11月27日(土) 13:30~16:00	音楽棟演奏ホール	約120名
<p>宗教・文化研究所公開講座</p> <p>どこへ行くのか21世紀の人類 ―地球環境の現状と未来を展望する―</p> <p>第I部</p> <p>第II部</p>	<p>京都大学名誉教授 河野 昭一 氏</p> <p>司会:本学教授 高桑 進 氏</p>	11月27日(土) 13:00~16:00	A401教室	
<p>英文学科秋期公開講座</p> <p>International Stereotypes: An Aid or a Hindrance to Crosscultural Communication?</p> <p>世紀末文学と身体</p>	<p>本学教授 Francisco Martinez 氏</p> <p>大阪大学教授 玉井 聡 氏</p>	11月30日(火) 13:00~14:30 14:45~16:15	J525教室	約100名

また、ニューイヤーコンサートは、事務局長のもとに設置されたワーキンググループにおいて、計画案を策定し教育研究成果の社会への還元及び地域における文化芸術の振興を目的に、社会的に活躍している本学音楽教育学専攻の教員による演奏会として、広く一般市民を対象に実施している。入場料は無料で事前申し込み制をとっているが、毎回多くの申込者にお断りせねばならないほど申し込みは多い。

年度	開催日	開催場所	入場希望者数	入場者数 (会場定員)
平成 14 年度	平成 15 年 1 月 18 日 (土)	京都コンサートホール (小ホール)	1,561 名	501 名 (510 名)
平成 15 年度	平成 16 年 1 月 17 日 (土)	京都コンサートホール (大ホール)	4,686 名	1,608 名 (1,833 名)
平成 16 年度	平成 17 年 1 月 16 日 (日)	びわ湖コンサートホール (大ホール)	3,544 名	1,641 名 (1,848 名)

次に、公開講座一覧の中にも記載されているが、英文学科の教員が平成 15(2003 年)以降開催している「女性のための無料英語教育」は、大学と社会との生きた交流をはかる一つの試みといえる。これは 4 月から 7 月までの毎週金曜日、京都市内に在住または勤務する女性を対象に、全 12 回、中学生レベルの英語を教えるもので、教師役には大学の英文学科や短大の英語・英文専攻の学生があたっている。初年度の平成 15 年度は 26 名と参加者は少なかったが、平成 16 年度には 82 名、また平成 17 年度には 231 名を数えるほどに、地域社会の女性たちに人気のあるものとなっている。この教室は学生たちには生きた教育の実践の場を与え、教育実習前に実践的な訓練を積み、高度な実習経験を体験でき、教員になるという動機を高めるのに非常に役立っている。一方受講する女性たちには、英語を学びたいが学習する機会に恵まれなかった方々に、英語の教授をうけるという機会を与えることができ、受講生からも開催の強い要望を得ている教室となっている。

以下に年度ごとの受講者の年齢構成・人数を記載する。

年齢	平成 15 年度		平成 16 年度		平成 17 年度	
	人数	構成率(%)	人数	構成率(%)	人数	構成率(%)
20 歳代	1	3.9	9	11.0	11	4.2
30 歳代	5	19.2	10	12.2	36	14.5
40 歳代	3	11.5	13	15.9	104	38.9
50 歳代	15	57.7	31	37.8	71	25.9
60 歳代	2	7.7	17	20.7	13	4.3
70 歳代	-	-	2	2.4	5	1.9
合計	26	100	82	100	276	100
平均年齢	≒49.4		≒45.2		≒49.9	
2 年連続	-	-	11	13.4	34	13.0
3 年連続					9	3.2

これを見ると 50 歳代の主婦が一番多い(平成 17 年度は 40 歳代)ことが分かる。また、20 歳代から



70 歳代の各々の年代が受講しており、2 年連続あるいは 3 年連続して受講する方が平成 17 年度で合計 276 名中 34 名 13.0%、同じく 9 名 3.2%もあり、この教室が定着しつつあることがうかがえる。さらに職業で見た場合、主婦・会社員・介護士・保育士・看護師・公務員・薬剤師・工芸染色家・フードコーディネーター等多種にわたっている。

全京都小学生お話コンクールは小学生が 6 つのテーマ①わたしのおとうさん ②わたしのおかあさん ③わたしのともだち ④いちばんうれしかったこと ⑤いちばんこわかったこと ⑥こんな人になりたい から一つのテーマを選び、児童が自分で考えたことや感じたことを、自分の言葉で発表し、その内容と表現の仕方を評価しようとするもので、児童は原稿を持たずに聴衆の前でお話をし、自分の考えを伝えさせるものである。毎年、多くの参加を得ているが、近年の参加小学校数・参加者は、平成 14 年度は 21 校・99 名、平成 15 年度は 24 校・101 名、平成 16 年度は 19 校・80 名、平成 17 年度は 16 校・84 名となっており、マスメディア(NHK 京都放送局、毎日新聞京都支局)の後援も得て、既に 47 年にわたって開催している。参加される学校指導者や参加者からも毎年の開催を望む声が大きき行事である。

科目等履修生は、平成 14 年度は 30 名、平成 15 年度は 41 名、平成 16 年度は 39 名の出願者がいる。履修生は本学及び他大学の卒業生である。

研究成果の著作物に関しては、本学には独自の大学出版局はないが、京都女子大学研究叢刊と各学科で編集・発行する学術雑誌が主な出版物となる。また個別に出版費の一部助成を得た教員はその研究成果を各種出版社から刊行している。京都女子大学研究叢刊は昭和 35 年度以降、随時刊行されており、平成 16 年度までに 44 点出版されている。このうち平成 14 年度には 3 点、15 年度に 2 点、16 年度は 2 点の出版があった。また出版費の一部助成による刊行は、平成 2 年度以降平成 16 年度まで 12 点に及び、このうち平成 14 年度に 1 点、16 年度には 2 点の出版があった。各学科で編集・発行する学術雑誌の一覧は以下のとおりである。

	学科・専攻	学 会 誌 名
大 学	国文学科	女子大國文
	英文学科	英文学論叢
	史学科	史窓
	教育学科	発達教育学部紀要(京都女子大学教育学科紀要、児童学研究 - 2004 年度まで)
	児童学科	
	食物栄養学科	京都女子大学食物学会誌
	生活造形学科	生活造形
	生活福祉学科	京都女子大学生生活福祉学科紀要
	現代社会学科	現代社会研究
人文学会	人文論叢	
大 学 院	国文学専攻	国文論藻
	英文学専攻	英語英文学論輯
	史学専攻	京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 史学編
	教育学専攻	教育学・心理学論叢

大学院研究科の教員、学生の研究成果は、大学同様研究誌の刊行という形で社会に開示されている。大学院独自の紀要としては『国文論藻』『英語英米文学論輯』『史学編』『教育学・心理学論叢』が刊行されており、より高度な研究成果が公表されている。

さらに、平成 13(2001)年 4 月に大学院文学研究科の臨床心理学の実践にかかわる学術研究を深め、その成果を大学院の教育並びに社会一般に還元することを目的に開設された「京都女子大学こころの相談室」は、外来の一般人を対象に、関係する教員、相談員、大学院学生が担当し、相談に応じている。相談室の利用者は年々増加傾向にあり、現代の社会の要望に大きく応えていると言えよう。また、平成 15(2003)年度からは『京都女子大学こころの相談室心理臨床研究』の刊行を開始している。

自然科学教室では、本学園が所有する尾越山林を「京女の森」と称し、教員・学外研究者及び学生が長年にわたり調査・研究を行ってきた。また『尾越山林環境調査報告書』を京都市内の小・中・高等学校にも配布し、環境教育の視点で生かしていこうとしてきた。平成 14 年には、宗教・文化研究所及び自然科学・保健体育研究室の紀要に研究報告をまとめた。また平成 15 年秋季公開講座を開催し、研究・活動の成果を社会に問うた。

また、現代社会学部においては大学院も含め、教員と市民の共同作業を含む市民活動への貢献等について、多岐にわたる専門分野を有する現代社会学部の教員個々の努力を通して行われている。このため、それぞれの分野において個別に社会貢献を行っているのが現状である。ここで数例の具体的な実践例を挙げるならば、例えば政府・行政機関の各種審議会委員としての社会貢献、府あるいは市・区など地方行政の各種審議会委員としての社会貢献、地域社会の国際交流 NGO 団体理事としての社会貢献、子育て支援組織の館長としての社会貢献、地域社会の学校評議員や地域教育協議会委員等としての社会貢献、地域社会の商店街や地域環境等における社会調査活動とその成果の地域社会への還元、科学技術と社会に関するコンセンサス会議の指導を通じた社会貢献、個々の教員の専門性を生かす形で各種研究会主催を通じた社会貢献、各種 NGO/NPO 団体の情報化支援活動を通じた社会貢献、地域の科学実験教室開催や小中高学校での講演等による社会貢献など、その貢献の分野は多岐に亘っているのが現状である。

社会貢献における電子メディアの活用については、各種の公開的あるいは限定的な電子メディア、例えば電子掲示板、メーリングリスト、Web 上のホームページなどを利用して各教員の専門知識を生かす形の社会貢献も積極的に行われているのが現状である。これを行うために現代社会学部では学部独自の情報教育委員会を組織している。この委員会では学部情報教育の諸課題を議論し決定実行するだけでなく、この委員会のもとで学部発足当初から独自サーバの管理と運営を行い、また教員による利用の推進等を行っているのが現状である。特に大学院においては、社会貢献における電子メディアの活用は、特別の重要性と独自の課題を持つものである。この理由は、日本社会において 1990 年代から国家政策として、大学院大学化が進行しているからである。特に理工系を中心として社会科学系においても全国的に大量の大学院生が誕生している。その多くは社会人と留学生の大学院生の増加を想定している。このような社会人層や留学生層に対して研究科をアピールする上で、電子メディアの活用は特に重要である。なぜなら多忙な社会人大学院生にとって、情報通信ネットワークや電子メディアの活用は、学部学生とは比較にならないほど、強い要望があるからである。このような

認識を背景として現代社会研究科においては、今後の社会人大学院生の増加にも対応することを想定して、e-Learning システムの開発など、情報技術開発を行い、また学部教育を舞台とした調査研究と試行等を行っているのが現状である。

### 【点検・評価】

大学の社会への貢献がますます期待されるなか、講座や催し物は、プログラムも豊富で社会のニーズに一定応えているといえる。公開講座の主体が各学部・学科に置かれているため、講演形式だけではなく、シンポジウム形式や親子で参加、相談形式等多様で、ニューイヤーコンサートのように芸術を楽しむ場の構築も出来つつある。本コンサートは、京都府の後援名義使用を民間で初めて受けた事業であり、例年、多くのマスメディアに取り上げられるなど社会的に高い評価を受けている。特に平成 15 年度からは、経常費補助金特別補助対象事業として補助金申請が受理されており、文化庁からの後援も受けている。

また、女性のための無料英語教室は、社会貢献と教育の結合が成功している一例である。

科目等履修生については、毎年受講生が一定数存在するものの、一人一人の受講生への目配りがどこまでできているかは、はなはだ疑問である。

「京女の森」での活動は、調査・研究と教育の結合を学内を越えて実践してきている。山林環境を保存し、実体験的環境教育カリキュラムの構築を目指した研究が、その成果を社会へ発信することにおいて、環境保全観の普及に寄与しているものと評価できる。

### 【長所と問題点】

大学における社会との文化交流の一環としてすでに公開講座を開催しているが、その趣旨は大学における研究や教育の成果を広く社会に向けて発信しようとすることにあり、その意味では大学から社会に向けて一方通行的な発信となりやすい。文化交流という理念を字義通りにとらえるならば、市民の側から発せられた情報やアイデアを大学側が受容し、新たな知見を加味して再び社会へ還元するという連動性が求められてくるだろう。現在、公開講座や催し物は質的にも量的にも豊かで、一応の社会貢献には応えている。しかし今後一層の充実を計るためには、受講者・参加者の層や要望を調査等により科学的に知る必要があるだろう。大学が何を要求されているかを具体的に知るにより、内容や形式をさらに社会のニーズに促したのものへと高めていくことができると考えられる。

### 【将来の改善・改革に向けた方策】

公開講座については各学部内での委員会は出来ているが、全学的な委員会を設置し、学部・学科間を超えた学際的なテーマや社会の多様な関心に応える内容を検討する必要がある。社会のニーズについても調査を行い、具体的データにもとづいてテーマを設定し、より多くの人々の要求に即した講座の在り方と、併せて宣伝方策も考えていく必要があるだろう。

ニューイヤーコンサートについては開催内容のマンネリ化が懸念される。このため、声楽中心あるいはピアノ中心のコンサートとし、そこにオーケストラを加える形式に変える等の方策が取られている。

また参加者の半数以上が、40歳から60歳の女性(主婦)である。今後は、高校生層にも本格的なワークショップに親しんで欲しいと考えており、高等学校への開催案内などの積極的努力が求められる。

社会への貢献事例は、上記した他にも教員の個別研究やその延長として実践されているものが幾つかある。それらはややもすると資金や人的な面においておのずと限界があるため、社会貢献へ向かう理念が十分達成されない、もしくは実践が継続しがたい状況にある。大学の果すべき使命の一つは、社会と連携し社会にいかに関与できるかにある。社会に資する萌芽的な研究活動の振興の意も含め、今後はこれらの個別研究実践を大学として支援し発信していく制度等の整備が望まれる。

大学院の研究成果の社会への開示については、学部と同様に、今後の継続的検討が必要とされる。なぜなら大学院の社会的機能と役割自体が、大きな変化の途上にあるからである。実際、現代社会では多くの事象がグローバルな相互依存性と複雑化を続ける中で、どの大学院にでも従来型の研究者養成だけでなく、より広い視野から実務型の人材養成を含めて社会的機能の見直しを余儀なくされている。特に現代社会研究科が果たすべき社会的役割は増大しており、本研究科に対する社会的付託やその期待も今後、より強まりこそすれ減ずることはない。特に大学院は世界の現状を視野に入れた再検討が学部より強く求められる。このため、社会への貢献の形態や組織について今後も検討の機会を増やすことが特に重要であると判断される。

#### d. 地方自治体等の政策形成への寄与の状況

##### 【現状の説明】

地方自治体等の政策形成への寄与の状況という観点では、大学が組織的に行っていることはなく、所属教員それぞれの研究内容に照らし、各自治体等からの委嘱を受けて、個別に実施されている。過去3年間の地方自治体等からの兼職兼務の依頼は以下のとおりである。

平成15年度

学部・学科	職名	委嘱機関	委嘱内容
文学部教育学科	教授	神奈川県教育委員会	第3回県立伊勢原射撃場あり方検討会議
家政学部生活造形学科	教授	高知県	平成15年度高知県企業化支援客員研究員の委嘱
家政学部児童学科	教授	大阪府教育センター	教育相談員の委嘱
家政学部食物栄養学科	助教授	長崎県政策調整局	長崎県客員研究員の委嘱
家政学部生活造形学科	教授	京都市	京都市美観風致審議会委員の委嘱
家政学部食物栄養学科	教授	厚生労働省	管理栄養士国家試験委員の委嘱
家政学部児童学科	教授	京都府保健福祉部	京都府地方障害者施策推進協議会委員の委嘱
現代社会学部	教授	国土交通省近畿地方整備局	近畿地方整備局事業評価監視委員会委員の就任
現代社会学部	教授	京都府保健福祉部	京都府社会福祉審議会委員の委嘱

現代社会学部	教授	大阪府企画庁 西部人権室	大阪府在日外国人問題有識者会議委員の委嘱
現代社会学部	教授	京都市環境局	京都市廃棄物減量等推進審議会部会委員就任
現代社会学部	教授	兵庫県	兵庫県港湾審議会委員への就任
現代社会学部	教授	長岡京市中央 公民館	長岡京市公民館男女共同参画講座講師
現代社会学部	教授	兵庫県健康生 活部環境局	産業廃棄物審議会委員の委嘱

平成 16 年度

学部・学科	職名	委嘱機関	委嘱内容
発達教育学部教育学科	教授	京都市	京都市男女共同参画審議会委員への就任
発達教育学部教育学科	教授	長岡京市	長岡京市男女共同参画懇話会委員
発達教育学部教育学科	教授	神奈川県教育 委員会	第 5 回県立伊勢原射撃場あり方検討会議
発達教育学部児童学科	教授	和歌山県	和歌山県青少年問題協議会専門委員の委嘱
発達教育学部教育学科	教授	奈良県	「教育コース連絡協議会」への派遣
家政学部生活造形学科	教授	奈良県教育委員会	奈良県立図書館ロゴマーク募集に係る審査委員
家政学部生活造形学科	教授	高知県	平成 16 年度高知県企業化支援客員研究員の委嘱
家政学部生活造形学科	助教授	滋賀県	滋賀県立近代美術館収蔵品審査会委員の委嘱
家政学部生活造形学科	教授	京都府	京都府発明等功労者表彰審査会審査委員の就任
現代社会学部	助教授	京都市	京都市政府調達苦情検討委員会委員の委嘱
現代社会学部	教授	大阪市	大阪市都市計画審議会委員
現代社会学部	教授	大阪市	大阪市総合計画審議会委員の委嘱
現代社会学部	教授	兵庫県	防犯まちづくり有識者懇話会委員への就任
現代社会学部	助教授	京都市	京都市契約審査会の委員委嘱
現代社会学部	教授	滋賀県	滋賀県琵琶湖研究所研究評議会委員の委嘱
現代社会学部	教授	京都市	「京都国際マンガミュージアム(仮称)構想」策定記念フォーラムにおけるパネリスト
現代社会学部	教授	大阪市	大阪市都市景観委員会委員の就任
現代社会学部	教授	兵庫県	兵庫県環境審議会委員の就任
現代社会学部	教授	兵庫県川西市	川西氏行政 SR 作戦審議会委員の就任

平成 17 年度

学部・学科	職名	委嘱機関	委嘱内容
文学部史学科	教授	京都市	京都市文化財保護審議会委員の就任
文学部史学科	教授	京都府教育委員会	文化的景観検討委員会委員の委嘱
発達教育学部児童学科	教授	大阪府教育センター	平成 17 年度教育相談員の委嘱
発達教育学部児童学科	教授	和歌山県環境生活部	和歌山県青少年問題協議会委員の委嘱
家政学部生活造形学科	教授	高知県	平成 17 年度高知県企業化支援客員研究員委嘱
家政学部生活福祉学科	特任実習助手	摂津市	摂津市介護認定審査会委員の委嘱
家政学部生活造形学科	助教授	京都市	京都市住宅審議会委員の委嘱
家政学部食物栄養学科	教授	長崎県政策調整局	長崎県客員研究員
家政学部生活福祉学科	教授	経済産業省製造産業局	電気分解と膜処理による染色排水の脱色と再利用技術開発評価検討会委員の就任
現代社会学部	教授	京都府教育委員会	京都府社会教育委員の就任
現代社会学部	教授	寝屋川市	寝屋川市男女共同参画審議会委員
現代社会学部	教授	大阪府	アジアの中核都市・大阪ビジョン策定に係る有識者懇談会委員
現代社会学部	教授	大阪府企画調整部	大阪府在日外国人問題有識者会議委員の就任
現代社会学部	教授	大阪市長	「大阪市立環境学習センター」指定管理予定者選考委員会
現代社会学部	教授	大阪市長	「大阪市立共同利用施設指定管理予定者選考委員会」委員への就任
現代社会学部	教授	大阪市長職務代理者 大阪市助役	「大阪市環境表彰」選考委員への就任
現代社会学部	教授	豊中市長	豊中市公共事業再評価委員会委員への就任
現代社会学部	教授	兵庫県知事	兵庫県港湾審議会委員への就任
現代社会学部	教授	国土交通省	国土審議会近畿圏整備部会委員の就任

**【点検・評価】【長所と問題点】**

上記の一覧から、おおむねすべての学部の教員が各地方自治体の政策形成に対して、何らかの形で参画、寄与している状況がわかる。特に研究成果が政策形成に結びつきやすい学系である発達教育学部や現代社会学部などは、地方自治体からの委嘱を受ける事が多いことは当然のことといえよう。

しかし、これらは委員等就任の委嘱依頼が大学を通して行われたケースのみであり、教員が個人的に教育研究活動の中で、地方自治体の政策形成に関与するケースなどについては大学が全てを把握できていない状況にあるといえる。

### **【将来の改善・改革に向けた方策】**

地方自治体の政策形成への寄与とは、本学が社会に対し積極的に交流を深め、高等教育機関としての教育研究成果を還元する使命を果たしているという意味において、その影響が最も目に見える形での社会貢献であると言える。それは裏を返せば本学に対する社会からの信頼の現れであり、今後もこれまで以上にその期待に応えるべく、不断の努力を続ける必要がある。

同時に、現状において個々人の範疇で収まっている寄与の範囲を、学部学科及び大学全体にまで広げていけるよう、研究成果の公表を積極的に進めていく必要がある。自己点検・評価に平行して刊行されている「研究者要覧」内に、各教員の専門分野及び教育・研究活動の状況が詳細に記されているが、現状は他大学等に対しての冊子配布にとどまっており、今後近隣の地方自治体、教育機関への配布、または自己点検・評価報告と併せてホームページ上で誰でも自由に閲覧できるようなシステム等を構築していくことで、より広範な連携・交流が進めていけるだろう。